

ガマ合戦の様子



ヒキガエルの3段タワー 一番下がメスで、上の2匹がオス。繁殖期にはこうやってメスを巡るオス同士の争いが見られる。



①一番上のオスは腕を思いっきり伸ばして何とかメスにしがみつこうとしている。



②黄色っぽい真ん中のオスが両足を蹴り上げた！腕はガッチリとメスを掴んだままで、邪魔なライバルを足だけで振り払おうとしている。



③足蹴りを食らって、たまたまひっくり「カエル」。勝負ありだ。蹴り飛ばされた茶色いオスはそそくさと別のメスを探しに行ってしまった。

今年もガマ合戦の季節がやってきた。ヒキガエルは早春に繁殖を行うため、この時期にメスを巡るオス同士の争い「ガマ合戦」が見られる。繁殖時期はたったの1週間程度で終わってしまう。そんな話を授業でしたら、放課後に何人かが見に行ってみようだ。翌日に写真や動画を見せてくれて、「思ったより高い声で鳴いていた！」とか、「間違えてウシガエルに抱きついてちゃってました！」とか、色々発見があったようで話を聞いてこちらも楽しくなった。

ここ最近、急激に暖かくなってきて一気に春らしさを感じるようになった。東京都東部の最高気温は、2月24日までは10°C前後であったが、25日に13.4°C、26日に14.7°Cと上がり始め、27日には18.4°Cに達した。気温の上昇に合わせて、猿江公園の池ではヒキガエルたちが続々と冬眠から目覚めた。

ヒキガエルの出現時期を昨年と比較してみた。昨年の冬は暖かくなるのが早く、1月16日になんと最高気温18.7°Cを記録した。

春一番が吹いたのも、観測史上最も早い2月4日だった（今年は3月5日）。そのせいか、カエルの目覚めも早く、去年のメモを見ても2月8日にはすでにガマ合戦が始まっていたのを確認している（いきもの記Vol.20参照）。今年のガマ合戦は2月下旬なので、昨年より2~3週間遅い。ヒキガエルが冬眠から覚めるタイミングは、気温の上昇がおそらくとても大事な要素で、昨年と今年から、安定的に15°Cを超えるぐらいの暖かい日が続くと、池に集まってくるんじゃないかと思っている。もちろん、気温以外にも、雨の量なども関わりがあるだろう。カエルたちが短期間で繁殖を行うためには、オスもメスもみんなが同じタイミングで目覚めなければならない。カエルたちにとって目覚めの日を定める明確な基準があるのだろう。月の満ち欠けも関係しているのではないかという研究もある。いずれにしても、ヒキガエルにとって、寝坊は絶対に許されないのだ。

ガマ合戦が始まると、いよいよ生き物たちが躍動する春が来たと思ってわくわくする。気温が高く雨降る日は、職員室の窓から外を眺め、今日もカエルたちは元気かなあ…などと外に行きたい気持ちをぐっところえながら、事務仕事に追われる日々を送っている。



オスの左手

オスの手の第1指と第2指に（第3指にも少し）黒い粒々が集まったこぶがある。これは婚姻瘤（こいんりゅう）と呼ばれる。このこぶがメスをつかむときの滑り止めになる。



メスの右手



引っ張っても離れないオス

オスは腕力と婚姻瘤を使って、絶体に離すまいとかなりの力でしがみついている。